

高退協ニュース

高知高退協
事務局
1998-9-14
No.94

高知県高等学校退職教職員協議会
高知市丸の内二丁目一の二
教育会館内 高教組気付
TEL 088-811-6822
振替口座 徳島 五十一一八九三

参議選「苦勞様でした」

「高退協目標を読み切る」

参議選の結果は、ご承知のように、私たちが推薦して運動を進めてきました西岡さんは残念ながら惜敗という結果になりましたが、全国的には悪政の元凶自民党に痛打を与え、橋本政権を崩壊させました。

高退協は、八千の支持拡大を目標に高退教後援会（会長・浜田昌俊）と共同して多面的な活動にとりくみ、最終的には目標を読み切りました。

この選挙戦の総括は、九月十四日に拡大事務局会議を開いて行うことを、八月十八日の事務局会議で決めました。あらためて、会員みなさんの奮闘に感謝申し上げます。
(事務局)

夏季学習講座 盛会！

8月28日、恒例の夏季学習講座は、46名の参加者を迎えて盛会でした。講座は、会員上岡積さん「ジョギング讃歌」、中内光昭さん「DNAの話」、内容が「こうたいきょう」19号に載せられますのでお読みください。続いての懇親会は、35名の参加で、講師を囲んで賑やかな歓談がはずみきました。来年もまた、より多くの参加を願っております。



秋深く

研修旅行で親睦を

前93号でお知らせした淡路島・鳴門方面研修旅行の日程は、都合により11月12日(木)13日(金)に変更になりました。

見学先は、藍染工芸館・大谷焼窯元・野島断層保存館・淡路人形座・大塚国際美術館と前号通り。いずれもよかつたと感じていただけると係一同確信しています。

夜はカラオケ・隠し芸大会など思いきり楽しく過ごしましょう。バスは窪川発6時20分、須崎7時、土佐市7時40分、高知駅8時40分、南国IC9時10分と5ヶ所乗車でき、帰りも同様、窪川着は20時30分頃です。3万5千円以上参加が必要ですが、ぜひお申し込みください。

申し込み先

窪田一郎	44
西田令子	42
山脇正照	94
小島真子	43
締め切り	9月末日
	7 3 0 0 7

老声草

▼いわゆる学校五日制を目指す制度変更の動きが始まっている。教育制度審議会の中間報告も出された。現在の教育状況を考えるとき、この問題は国民的検討課題であろう。▼デモ・シカ教師のはしくれで、教育理論もろくに勉強する機会がなかった身で意見を出すのは気が引けるが、普段から思っていることを述べてみよう。▼問題は多岐にわたる複雑にからみあっている、とりあえず学校教育の入り口初等教育にしばって論ずることにする▼最近小学校低学年から授業が成り立たなく、学級経営も難しいと聞く。われわれの子供時代からは想像もできない。昔の小学生のほとんどは、学校では「よく学び」家に帰れば「よく遊んだ」ものである。▼この荒廃の原因は過密な詰め込み教育である、この点ではみんなの意見は概ね一致していると思う。これも違いない。▼この荒廃の原因は過密な詰め込み教育である、この点ではみんなの意見は概ね一致していると思う。これも違いない。▼この荒廃の原因は過密な詰め込み教育である、この点ではみんなの意見は概ね一致していると思う。これも違いない。



「秦東寺日記」抄 坪井 幹之

七月

「一日」後援会との合同選対会議に参加。参議選終盤のとりくみについて協議。

「七日」一時よりニュース発送の準備。引き続いて事務局会議。議題は夏季学習講座、研修旅行、参議選などで短時間で終了。しばらく高退協の活動について「シンポ」、そのあと夕方開催の「とりもどす会」と共産党共催の街頭政談演説会に参加。

「十二日」「北歐ツアー」に出発。泉佐野で前泊。夜テレビで参議選の結果を知る。西岡さんは残念、やはり公明の票が大きく動いたか。全国的には前進。自民党惨敗、橋本は退陣に追い込まれる。

「十三日」関空よりヘルシンキを経てオスロへ。

「十四日」ノルウエーの首都オスロと古都ベルゲンを観光。

「十五日」まる一日バスでフイヨルド地帯を走る。途中、世界最長のソグネフイヨルド

をフェリーで渡る。ロエン泊。

「十六日」ヨステルダル氷河をトレッキング。アイゼン、ピッケルの重裝備の上、ザイルをつけてヨーロッパ最大の氷河の上を歩く。気分爽快。

「十七日」ロエンよりガルドビッグン山を目指す。手違いで、スカンディナビア最高峰登頂寸前で時間切れ。この旅行唯一の挫折を味合う。

「十八日」ノルウエーとお別れ。スウェーデンのラップランド「アビスコ国立公園」に向かう。さすが北極圏、太陽は真横に進行、夜はなし。

「十九日」国立公園内のニューラ山に登山。

「二十日」アビスコ川沿いのハイキング。帰途、ラップランドの先住民タメ人の旧居住地に立ち寄る。

「二十一日」午前中、自由行動。ニューラ山麓を散策。午後首都ストックホルムに飛ぶ。

「二十二日」市内見学をすませて、「シリヤ・ライン」の豪華船に乗り込む。五万八千トンの船は浮かぶホテルといったところ。

「二十三日」波静かなバルト

海を渡ってフィンランドの首都ヘルシンキへ。首都郊外の国立公園でウォーキングを楽しむ。サウナ入浴後、野外でサーモンを頂く。至福のひととき。夜は日本食で乾杯。

「二十四日」午前中、ヘルシンキ市内観光。帰国の途に。

「二十五日」朝、関空着。ただちに乗換えて高知空港へ。二十五名全員無事北歐三国の旅を終える。

「二十八日」高退協読書会。八名の参加あり。冒頭、互助会よりの助成金について報告。参議選、北歐ツアーが話題になる。本題の「日本社会の歴史」は内容が膨大でつっこんだ論議にいたらず終了。次回は松本清張の「けものみち」を取り上げることにして散会。

八月

「三日」奥秩父山行の打合せ会を開く。

「十七日」「山の会」八月例会・奥秩父山行に出発。同行一〇名。身延線經由山梨県増富温泉へ。

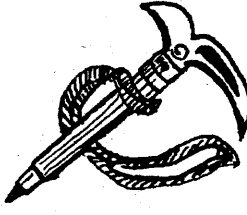
「十八日」瑞穂山に登る。最後の一時半はものすごい急坂。頂上は奇巖累々。下山直

後の生ビールがうまかったこと。瑞穂山荘泊。

「十九日」金峰山に登る。この山のシンボル「五丈岩」には驚嘆。下山後、金峰山山荘泊。新装なる風呂で入浴後、百名山の二つの山に登頂したことを記念して盛大に祝杯。

「二十日」清里から飯盛山を目指す。時間切れで登頂断念。八ヶ岳山麓の野辺山ホテルに泊まる。

「二十一日」小海線、長野新幹線で東京へ。羽田から高知空港に飛ぶ。全行程天候にも恵まれて、全員無事帰着。



俳句

7月29日

「吟行旅行」第一日

香川県

五色台・白峰寺・根香寺

青幹

瀬戸大橋夏霞より現はるる

蒸し暑し瀬戸の夕風とはこれか

たねを

鬼百合に混じる七草秋近し

水軍も海軍も逝き夕風ける

伸秋

保元の往時もかくや蟬の鳴く

涼しさよ役の行者の高足駄

みち代

うち仰ぐ玉章という大夏木

女郎花咲き山寺はすでに秋

さちを

万緑や昔猪の鼻越えて来し

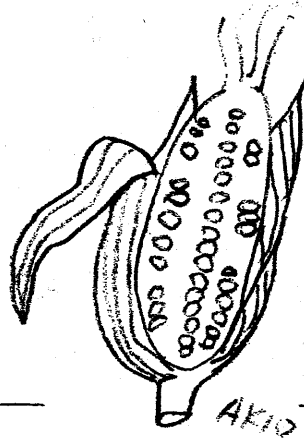
鐘一打和することくに法師蟬

土佐文雄を偲ぶ会

高退協18名参加

9月5日午後6時から高知会館に、文学学校や元の職場の同僚友人知人など百人以上が参加して、土佐文雄を偲ぶ会がもたれました。まず、全員で黙祷、第一部、来賓の挨拶として浜口富治氏(画家)細野明子さん(友人)山原健二郎氏(勤評の会)の三名が故人を偲ぶ言葉をのべました。

つぎに大崎二郎氏(友人)の音頭で乾杯、参加者一同故人を偲びつつ楽しく歓談し、杯を交しました。高退協から上田栄蔵、島内一夫、湯浅秀夫、平石正敏、河野功、野島幸代、岡崎清恵など18名が参加しました。



「二十八日」高退協夏季学習講座。今年も満席の盛況。会員のお二人より有意義な話を聴く。上岡さんはマラソン、トライアスロンの体験談を語る。ランニングにかけた執念はお見事。中内さんはユーモアのある語りぐちでDNAを解説。人からは人のみが生まれる仕組みが遺伝の本質。その情報伝達支える物質がDNAであるとのこと。それにしても単細胞から人間にいたる進化の過程など物質の自己運動は神祕に満ちている。終了後、恒例の懇親会。こちらの方も盛会であった。



△会員の消息

☆小松敏幸さんよりお便りがありました。

一つは共同通信社の「凍える心臓」の紹介です。この本の著者の一人が、山田高校定時制時代の教え子平野さんのお嬢さんだそうです。内容については別の機会に。

また、敏幸さんご自身のお嬢さんはウィーンで音楽の勉強中で、オペラにも出演、この年末にはCDが完成することです。

私の健康法

池上寿雄



隣部落に私より一廻り上の九十四歳の元小学校校長さんがおられ、背筋はピンと、全部自分の歯で元気が、数年前健康かどうかは①立ったまま靴下をはける②足を開いて立ち跳びはねて半回転できる、③仰向けに寝ていて手を使わずに上半身を起せることを条件として話されたことがありましたが、若い人は勿論私もまだそれはできません。さて、私の日課は朝起きるとウエストバンドを巻いて、3kgと2kgのダンベルを夫々使いわけて、部屋の壁に取り付けてある戸板大の鏡の前で体操を約三十分します。次にぶら下がり機でぶら下がりを一分位し、さらに竹を二つ割りにしたような形のついたプラスチック製の道具で足の裏の刺激をやります。四十歳くらいの時ひどいギックリ腰をしてからぶら下がりを始め、それから重い物を不用意に持ち上げても大丈夫で再発しません。また足の裏の刺激は胃腸の強化その他に効果が見られるような気がしません。色々と遊びごとをやつて

来ましたが、勤めをやめてから菊作りと盆栽をやつています。それで体操がすんだら鉢に水をやりませんが、それだけでも一時間以上かかりません。午後には夫々の時期にせねばならない鉢仕事や待っています。百歳で元氣な加藤シズエ元代議士が一日に十回の感動をすること健康の秘訣にあげていました。植物を扱つてると一日に何回もの感動があります。今幸せだと思ふことは体に痛いところがなく、酒がうまく飲めることです。酒は毎晩ビール小ジョッキ一杯と日本酒一合と決めていきます。ビールにはチーズ、酒には山のもの、野のもの、海のものなどなるべく多種類の料理を添えてゆつくりと飲みます。寝付きはよく、バツタンキューで快眠。



第12回 高知県

高齢者大会へどうぞ

とき 10月29日(木) 午後1時~

ところ 高新文化ホール

電車通りのエレベーターで7階へ

参加費 300円

内容

シンポジウム

「介護保険で安心？」

ほか多彩なお楽しみ企画

「成人病」の予防は年1回の健診から

8月~9月は、高知生協病院で、高知市基本健康審査をうけましょう。

電話で市の「健康づくり課」(23-9436)

に申し込んでください。

受診票が届いたら、高知生協病院(40-0123)

の健康管理科まで電話で予約してください。

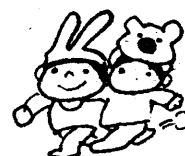
費用は1500円(70才以上の方は無料)です。

尚、有料で各種ガン検診等も実施できます。

お気軽に、お問い合わせください。

相撲三知識 二十八

林 勤



横綱土俵入り(2)
○土俵入りあれこれ

相撲評論家三宅充氏は本年七月七日赤旗に「新横綱若乃花の土俵入りは、一つ一つの動作が型にはまって美しく、全体としては先輩横綱よりもしつかりとしていゝ。貴乃花はシコが高く上がるのが取り得だが、せり上がる前に上体が前傾し過ぎて、せり上がりで腰が割れず、まるで相撲の型になつていない。曙は二十八代木村庄伸助さんに教わつただけであつて、せり上がりは最近の横綱の中では最もいいが、全く足が上がらない。シコが難、貴乃花を6点曙を7点とすれば若乃花は8点。……土俵入りの時間は1分40秒、45秒が妥当といわれているが、今の三横綱は1分10秒足らずである。もう少し間をとるところで間をとり、ゆつたりおこなうと、もっと立派に見えるであろう」という意味のことを書いています。

貴乃花については少し酷評の感もあるが、三者三様の特徴をよく捕らえている。私の見た土俵入りの中で、足がピンと上がつてシコがきれいなのは、玉の海と貴乃花である。栃木山は「重い綱と化粧まわし、合わせて二十キ口強をまとつて完全に型どおりやつていると、次第に足腰がよくなつてくる」と言つていたそうである。三宅氏は「古今大相撲事典(読売新聞社・昭和五十五年二月一日発行)」に「太刀山が休場する時、協会幹部が「せめて土俵入りだけでもやつてくれ」というと、「とんでもない、土俵入りは相撲をとるよりずっと疲れるものなんだ」といふたそうだが、それでこそ本場の土俵入りといえよう。――とも書いています。僅か二分たらずの土俵入りであるが、一つ一つの所作には奥深いものがあり、大変なものであることがよくわかる。横綱土俵入りは毎日四時頃、幕内力士の土俵入りには引き続きおこなわれていゝ。篤とご覧いただきたい。なお、土俵入りには「地固め・お田植え・出陣退陣・婚姻・お産土俵入り」等があり、それぞれ「祝い、祈り、願ひ、祝い、誓い」などの意味をこめて行なわれてきた、とされている。



高知市基本健康審査

サークルの公平な助成

と外来診療の補助を —退職互助部に要請—

5月19日、高退協は退職互助部に対し、夏季学習講座などへの助成金を申請しました。

同時に定期総会の決定に
その、①サークル活動への助成にあたっては、テニスクラブや機関誌活動へも公平に助成すること、②昨年9月の老人保健法の改悪で負担増となった外来診療費について補助をおこなうよう、要請しました。
対応した高知支部の塩田支部長は要望を伝えたいといい、とくに外来診療費の補助については同様の要望もあって努力を約束しました。



韓国の歴史と文化をたずねて

田所金久

知人に韓国での案内者を紹介してもらい、新羅・百濟などの史跡探訪と韓国文化を学ぶ旅に出発したのは、昨年の春のことであった。幡多ゼミの「渡り川」でもつながりをもった韓日文化交流協会の会長さんやその知人の方々の、言葉に尽くせないもてなしを受けた。新羅の旧都・慶州や百濟の扶余などは、期待に違わず、飛鳥などとながら、日本文化の古里を思わせてくれた。ソウルの市場は熱気にあふれてエネルギッシュであった。韓国風ということでオンドルのある旅館

第八回全退教(兼四プロ) 学習交流会

11月5・6日坂出市の五色台で標記の会の参加費は一万一千円(宿泊・懇親会費)。自家用車に分乗してゆきます。

参加希望者は10月15日までに岡崎副会長へご連絡ください。



ひきつづき互助会の本部である福利課に同じ要望を行ないました。
対応した高橋課長は、会場を借りるサークル活動のみ会場費を助成するという現行のやり方を固執し、サークル活動を公平に助成し、経費が高騰する機関誌活動にも助成を求めた高退協の要請にかたくなな態度をとりました。
外来診療費への補助については、財源上の困難さをあげながらも、主旨はわかるので検討することを約束しました。

を注文してあったが、その暑さには閉口した。一流の食通の方に案内してもらった韓国料理は、今までの外国料理の中でも最高であり、「食の旅」でもあった。なお、韓国では焼肉を食べるとき、キムチなどはいくらお代わりしても無料であった。昼食で食べた天然ウナギのすばらしさと量の多さにも驚かされた。飲み物では焼酎が非常にのみやすいものであった。また、食堂など営業の場所では、地球環境問題に対応するため、割り箸は使用が禁止されていて、ステンレス製の箸が使われていた。
終始ガイドして頂いたサイさんは植民地時代の、日本人の学生が多かった商業高校の卒業生で、校内で使用が禁止されている韓国語を、うっかり喋ったため校長や多くの先生にためちやくちやぶんなぐられ、それから後は、テストでどんなに



『老・眼・鏡』

「凍れる心臓」

過日、会員の小松敏幸先生から一冊の本が郵送されてきました。共同通信社発行の「凍れる心臓」という本でした。

先生のお手紙では、先生が山田高校定時制で教えられた生徒のお嬢さんが共著者の一人であり、日本の移植治療に関する問題提起の素晴らしい本なので、広く知人に読んで欲しくて、送らせて貰ったとのことでした。

ご好意を謝しつつ早速読んでみますと、さすがに共同通信社社会部の移植取材班の編著だけに、興味津々、一気に読了しました。

30年前、日本で最初の心臓移植としてマスコミの脚光をあびた札幌医大の和田教授グループの、医者の倫理や良心に反した一連の行為、それをカバリーする医学

よい点をとつてもよい成績はもらえなかったことなどを語ってくれた。(そこで作戦を練り、軍隊の学校を受験して教師を喜ばせて、成績を回復させた。もちろん試験は白紙に近い状況で出し、不合格にしたことは言うまでもないが。)
今でも、3・1独立宣言が読み上げられる独立公園では、やはりお年寄りの方から厳しい口調で日本の戦争責任が語られ、追及された。
冷戦時代なら敬遠したかもしれないが、今学ばふことの多い外国旅行の場所である。なお、

機関誌「こうたいきょう」19号の

原稿募集中

高退協の機関誌「こうたいきょう」も19号を数えるに至りました。今年も十二月初めに発行し全会員にお届けしたいと思っております。つきましては、皆さんの応募を心からお願いたします。

内容は、エッセー、コント、短歌、詩、俳句、川柳など各種文芸作品。

分量は、原稿紙四百字詰め五枚まで。

締め切り、十月二十五日。

また、同封の「近況報告」用ハガキのご返事もお願いたします。会員同士の消息を知るうえでとても役立つといわれています。

界の「密室性」「閉鎖性」が、各種証言や札幌地検の捜査報告書に基づいて検証され明らかになっていく。一種の恐怖を覚えた程で生きているのに、日本では移植治療はその後一例もなく、多額の経費と、特殊なつながりに悩まされながら、外国に行つて手術を受け、今一度、和田教授グループによる「心臓移植」の真相を明らかにする必要性を痛感させられる、啓蒙書といつてよい本です。
是非、会員の皆様も何らかの機会に一読されるようお勧めします。(岡崎)



往復とも高松空港発のアシアナ航空であったが、共に満席で、JTBの方からギャンブル目的の方が多いと聞かされていたが、実際は小学生のサッカーチームの遠征とぶつかったものであった。日韓の交流は若い世代にも確実に広がりがつた。他の国なら、英語の知識を基礎にして、多少は言葉の意味が理解できるが、朝鮮語は全く分からず変な気持ちになった。若いころ、西内薫先生から、「朝鮮語を勉強すべきだ」と諭されたことを改めて考えさせられた友好の旅であった。